

SAGA建設技術フェア2016

開催報告書



本報告書は、平成28年6月8日（水）～9日（木）にかけてマリトピアで開催した「SAGA建設技術フェア2016」の実施内容およびアンケート調査結果等についてとりまとめたものです。

平成28年11月

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

目次

1. フェアの概要	1
2. 出展者	2
2.1 出展者一覧表（38 団体）	2
2.2 会場配置	3
2.3 会場のようす	4
3. 来場者	5
3.1 来場者数	5
3.2 来場時間帯	6
4. 実施内容	7
4.1 ポスター及びチラシ	7
4.2 開催プログラム	8
4.3 開会式	9
4.4 特別講演	10
4.5 女性技術者講演	11
4.6 技術発表	12
4.7 パネル展示	13
4.8 閉会式	13
4.9 受講証明書の配布	13
5. アンケート結果	14
5.1 来場者アンケート	14
5.2 出展者アンケート	19
6. まとめ	23

1. フェアの概要

主	催	公益財団法人佐賀県建設技術支援機構
共	催	佐賀県／佐賀大学理工学部都市工学科／佐賀大学低平地沿岸海域研究センター／一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会／一般社団法人佐賀県建設業協会／一般社団法人佐賀県建築士会／特定非営利活動法人技術交流フォーラム
後	援	国土交通省九州地方整備局／佐賀市／一般社団法人佐賀県地質調査業協会／佐賀県土木施工管理技士会／一般社団法人佐賀県建築士事務所協会／低平地研究会／公益社団法人土木学会西部支部／公益社団法人地盤工学会九州支部／公益社団法人日本技術士会九州本部／建設新聞社
日	時	【1日目】平成28年6月8日（水）10:00～16:00 【2日目】平成28年6月9日（木）10:00～16:00
場	所	マリトピア（佐賀市新栄東3丁目7番8号）
目	的	建設分野（土木・建築）の技術・工法・製品などについて、産・学・官における技術情報の交流の場を提供し、技術開発や新技術導入の促進を図ること で建設産業の発展に寄与するとともに、学生・一般の方々に建設業界の魅力 や社会資本整備の必要性を認識してもらうことを目的とする。
テ	ー	マ 豊かで安全な暮らしを支える建設技術
内	容	技術展示ブース 特別講演 女性技術者講演 技術発表 パネル展示
出展	テーマ	環境／防災／コスト縮減／維持管理／佐賀の技術
来	場	者 総数 1,582名（2日間延べ）
	【内訳】	官公庁 74名 コンサルタント 259名 建設業 770名 学校関係 97名 学生・生徒 147名 一般 235名（ブース出展者含む）

2. 出展者

2.1 出展者一覧表（38 団体）

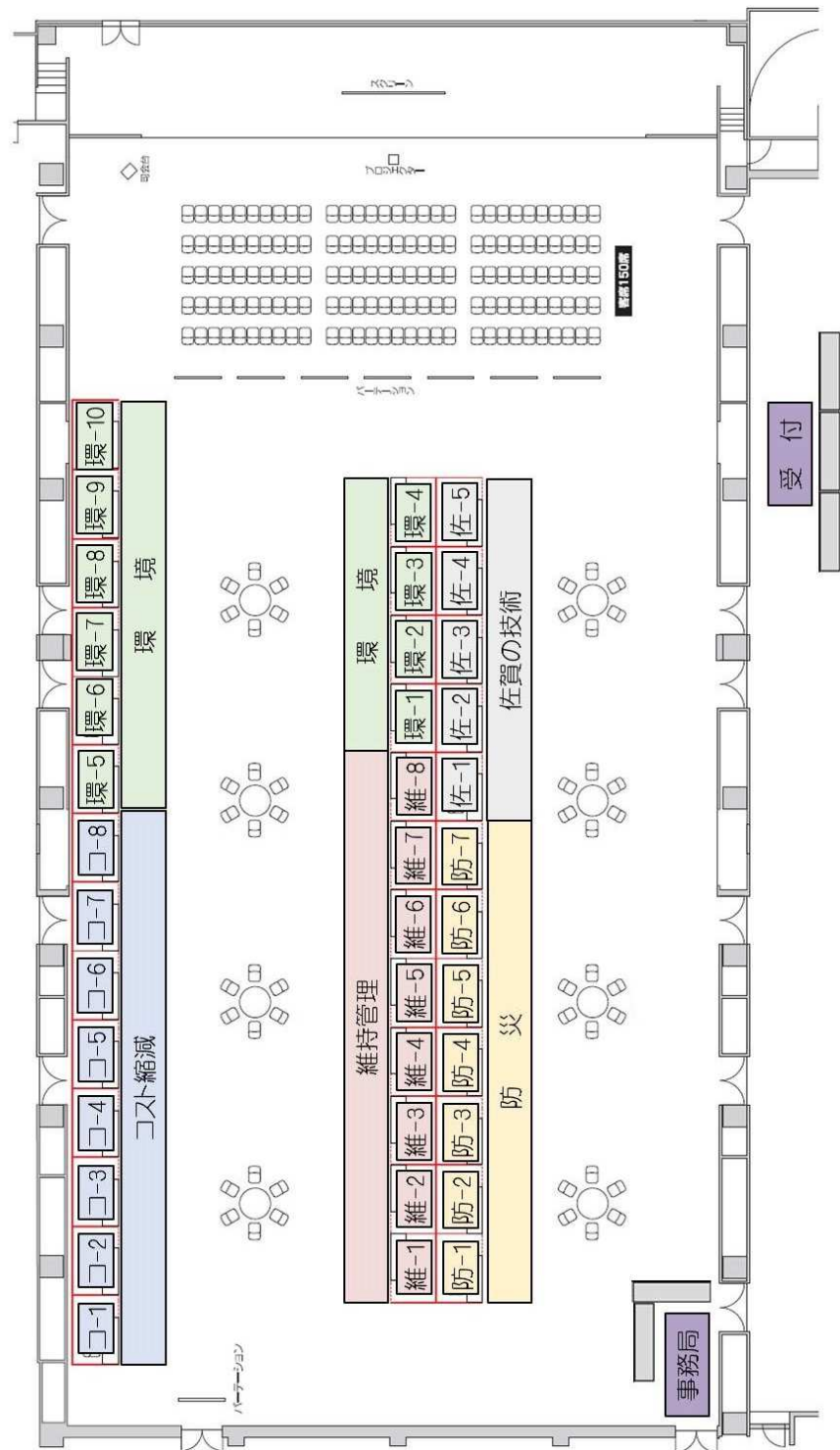
38 の企業・団体からブースを出展していただきました。うち、県内の企業・団体からの出展は 18 ブースでした。

【出展者一覧（38 団体）】

「SAGA建設技術フェア2016」出展者一覧		
分類	番号	企業・団体名
環 境	環-1	日本乾溜工業(株) 佐賀支店
	環-2	日本建設技術(株)
	環-3	(株)扶桑エンジニアリング
	環-4	レストム工法研究会 西日本支部
	環-5	(株)石橋建築事務所／北海道大学電子科学研究所
	環-6	E&Dテクノデザイン(株)
	環-7	朝日テクノ(株)
	環-8	九州地中熱利用促進研究会
	環-9	高原木材(有)
	環-10	ロンタイ(株)
防 災	防-1	不二コンクリート工業(株)
	防-2	芦森工業(株)
	防-3	(株)バイオテックス
	防-4	日特建設(株) 佐賀営業所
	防-5	(一社)メトリックス
	防-6	(株)馬渡商会
	防-7	中央開発(株)
コスト縮減	コ-1	錦城護謨(株)
	コ-2	(株)ワイビーエム
	コ-3	(株)ヤマウ 佐賀営業部
	コ-4	九州電力グループ 西日本技術開発(株) 佐賀営業所
	コ-5	(株)WASC基礎地盤研究所
	コ-6	(株)島内エンジニア
	コ-7	(株)リサーチアンドソリューション
	コ-8	GIコラム研究会
維持管理	維-1	麻生グループ
	維-2	ニチレキ(株) 佐賀営業所
	維-3	(株)マキテック
	維-4	(株)アイティエス
	維-5	NOK(株)
	維-6	国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所
	維-7	佐賀大学インフラ構造物長寿命化研究所
	維-8	精密舎(株)
佐賀の技術	佐-1	日之出水道機器(株) 九州営業所
	佐-2	(株)セリタ建設
	佐-3	(一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
	佐-4	フローティング基礎研究会
	佐-5	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター

2.2 会場配置

会場配置は、入口付近に受付/事務局、会場入って右側にステージ、残り 2/3 に出展ブースを設けました。



【会場配置図】

2.3 会場のようす



【全 景】



【受 付】



【出展ブース】



【ステージ】

3. 来場者

3.1 来場者数

2日間で総計 1,582 名の方にご来場いただきました。建設業の来場者が最も多く、次いでコンサルタントが多い結果となりました。

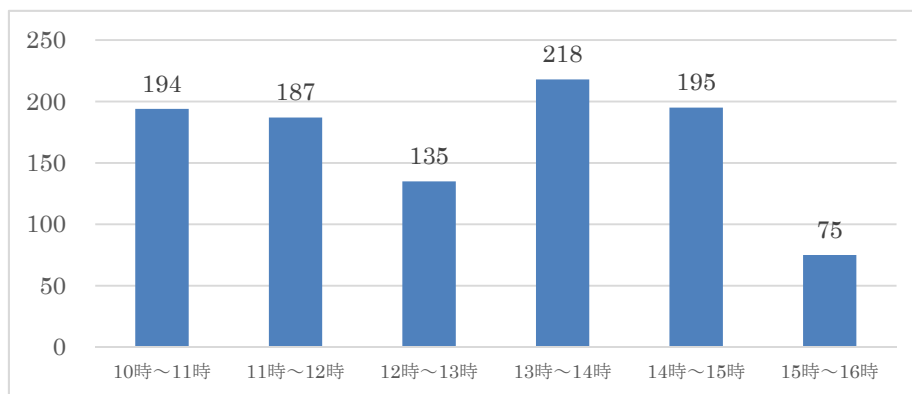
【来場者集計表】

(単位：人)

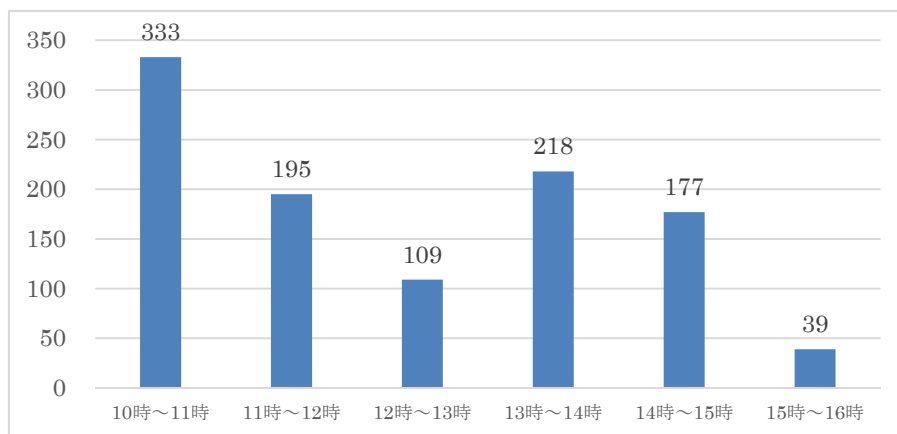
種別	性別	6/8(水)	6/9(木)	小計
官公庁	男性	31	38	69
	女性	0	5	5
	小計	31	43	74
コンサルタント	男性	123	121	244
	女性	6	9	15
	小計	129	130	259
建設業	男性	339	392	731
	女性	14	25	39
	小計	353	417	770
学校関係	男性	72	8	80
	女性	11	6	17
	小計	83	14	97
学生	—	60	87	147
一般	男性	100	109	209
	女性	14	12	26
	小計	114	121	235
合計		770	812	1582

3.2 来場時間帯

来場者へのアンケート結果を参考に整理した来場時間帯は、午前と午後ともに、時間が経つにつれて会場への滞在人数が減る傾向にあるようです。



(1 日目)



(2 日目)

【来場時間帯】

4. 実施内容

4.1 ポスター及びチラシ

フェアの開催を広く周知するため、ポスターおよびチラシを作成し、県市町や関係団体等に配布しました。



(ポスター／チラシ表)



(チラシ裏)

【ポスター及びチラシ】

4.2 開催プログラム

1 日目は開会式、特別講演、技術発表 13 件、2 日目は特別講演、女性技術者講演、技術発表 9 件、閉会式を行いました。

SAGA建設技術フェア2016 プログラム

6月8日(水) <<1日目>>

時間	内容	
10:00~10:10	開会式	主催者挨拶 来賓挨拶 テープカット
10:15~12:00	技術発表(1) 各15分	①【環-2】日本建設技術(株) ②【環-3】(株)扶桑エンジニアリング ③【環-4】レストム工法研究会 西日本支部 ④【環-5】(株)石橋建築事務所/北海道大学電子科学研究所 ⑤【環-8】九州地中熱利用促進研究会 ⑥【防-1】不二コンクリート工業(株)
13:00~14:00	特別講演(1)	「石井樋400年記念講演 石井樋から学ぶ温故知新」 さが水ものがたり館館長/佐賀大学名誉教授 荒牧軍治 氏
14:05~16:00	技術発表(2) 各15分	⑦【防-3】(株)バイオテックス ⑧【防-4】日特建設(株) 佐賀営業所 ⑨【防-6】(株)馬渡商会 ⑩【防-7】中央開発(株) ⑪【コ-1】錦城護謨(株) ⑫【コ-2】(株)ワイピーエム ⑬【コ-3】(株)ヤマウ 佐賀営業部
~16:00	1日目閉会	

↑
ブ
ー
ス
展
示
↓

6月9日(木) <<2日目>>

時間	内容	
10:00~	2日目開会	
10:00~10:20	女性技術者講演	「女性技術者として、土木を離れて考えたこと」 佐賀県 県土整備部 都市計画課 係長 天本貴子 氏
10:25~12:00	技術発表(3) 各15分	⑭【コ-4】九州電力グループ 西日本技術開発(株) 佐賀営業所 ⑮【コ-5】(株)WASC基礎地盤研究所 ⑯【維-1】麻生グループ ⑰【維-5】NOK(株) ⑱【維-7】佐賀大学インフラ構造物長寿命化研究所
13:30~14:30	特別講演(2)	「地域力を育む木造建築への取り組み」 (公社)日本建築士会連合会会長/芝浦工業大学名誉教授/ (株)アルセッド建築研究所 代表取締役所長 三井所清典 氏
14:35~15:45	技術発表(4) 各15分	⑲【佐-1】日之出水道機器(株) 九州営業所 ⑳【佐-2】(株)セリタ建設 ㉑【佐-4】フローティング基礎研究会 ㉒【佐-5】佐賀大学低平地沿岸海域研究センター
15:50~16:00	閉会式	主催者挨拶

↑
ブ
ー
ス
展
示
↓

4.3 開会式

ステージにて開会式を執り行いました。共催や後援の皆様方にもご列席いただき、主催者挨拶、来賓挨拶、テープカットが行われました。



【主催者挨拶(支援機構 小野前理事長)】



【来賓挨拶(武雄河川事務所長 岡下 淳 氏)】



【来賓・共催者によるテープカット】

(テープカット写真 左から)

特定非営利活動法人技術交流フォーラム

一般社団法人佐賀県建築士会

一般社団法人佐賀県建設業協会

佐賀大学理工学部都市工学科

国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所

佐賀県県土整備部

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター

一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

副理事長

会長

会長

専攻長

所長

副部長

センター長

副会長

前理事長

宮副 一之 氏

中野 昭則 氏

松尾 哲吾 氏

伊藤 幸広 氏

岡下 淳 氏

池田 直博 氏

荒木 宏之 氏

福島 裕充 氏

小野 龍太

4.4 特別講演

1 日目は、さが水ものがたり館館長/佐賀大学名誉教授 荒牧 軍治 氏に「石井樋 400 年記念講演 石井樋から学ぶ温故知新」と題してご講演いただきました。

2 日目は、(公社)日本建築士会連合会 会長 三井所 清典 氏に「地域力を育む木造建築への取り組み」と題してご講演いただきました。



【佐賀大学名誉教授 荒牧氏による講演のようす】



【アルセッド建築研究所 三井所氏による講演のようす】

4.5 女性技術者講演

建設業界での女性の一層の活躍に寄与することを目的として、女性技術者講演を 2 日目に行いました。講演では、佐賀県 県土整備部 都市計画課係長 天本 貴子 氏に「女性技術者として、土木を離れて考えたこと」と題してご講演いただきました。



【佐賀県 天本氏による講演のようす】

4.6 技術発表

希望する 22 のブース出展者による技術発表をステージにて行いました。1 出展者あたりの発表時間は 15 分で各技術や製品などについて発表がありました。

【技術発表者一覧表】

1 日 目	1	【環-2】	日本建設技術（株）
	2	【環-3】	(株)扶桑エンジニアリング
	3	【環-4】	レストム工法研究会 西日本支部
	4	【環-5】	(株)石橋建築事務所/北海道大学電子科学研究所
	5	【環-8】	九州地中熱利用促進研究会
	6	【防-1】	不二コンクリート工業（株）
	7	【防-3】	(株)バイオテックス
	8	【防-4】	日特建設（株）佐賀営業所
	9	【防-6】	(株)馬渡商会
	10	【防-7】	中央開発（株）
	11	【コ-1】	錦城護謄（株）
	12	【コ-2】	(株)ワイビーエム
	13	【コ-3】	(株)ヤマウ 佐賀営業所
2 日 目	14	【コ-4】	九州電力グループ 西日本技術開発（株）佐賀営業所
	15	【コ-5】	(株)WASC基礎地盤研究所
	16	【維-1】	麻生グループ
	17	【維-5】	NOK（株）
	18	【維-7】	佐賀大学インフラ構造物長寿命化研究所
	19	【佐-1】	日之出水道機器（株）九州営業所
	20	【佐-2】	(株)セリタ建設
	21	【佐-4】	フローティング基礎研究会
	22	【佐-5】	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター



【技術発表のようす】

4.7 パネル展示

国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所と佐賀県のご協力により、新技術・新工法やストック効果などに関するパネルを展示しました。



【パネル展示のようす】

4.8 閉会式

当支援機構の小野前理事長の閉会挨拶で2日間の幕を閉じました。



【閉会挨拶】



【閉会式のようす】

4.9 受講証明書の配布

当フェアは一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会の運営する CPDS（継続学習制度）の学習プログラムとして認定を受けており、希望する来場者に受講証明書を発行しました。なお、CPDS のユニット数は両日とも3ユニットでした。

また、三井所氏の特別講演は公益社団法人日本建築士会連合会が運営する建築士会 CPD の研修プログラムとして認定を受けており、希望する来場者7名について単位登録をしました。

5. アンケート結果

5.1 来場者アンケート

来場者を対象にアンケート調査を行いました。

(1) 1日目

設問 1) フェアの開催はどこで知ったか

職場内(学校内)からの案内が最も多くなりました。

設問 2) 職業

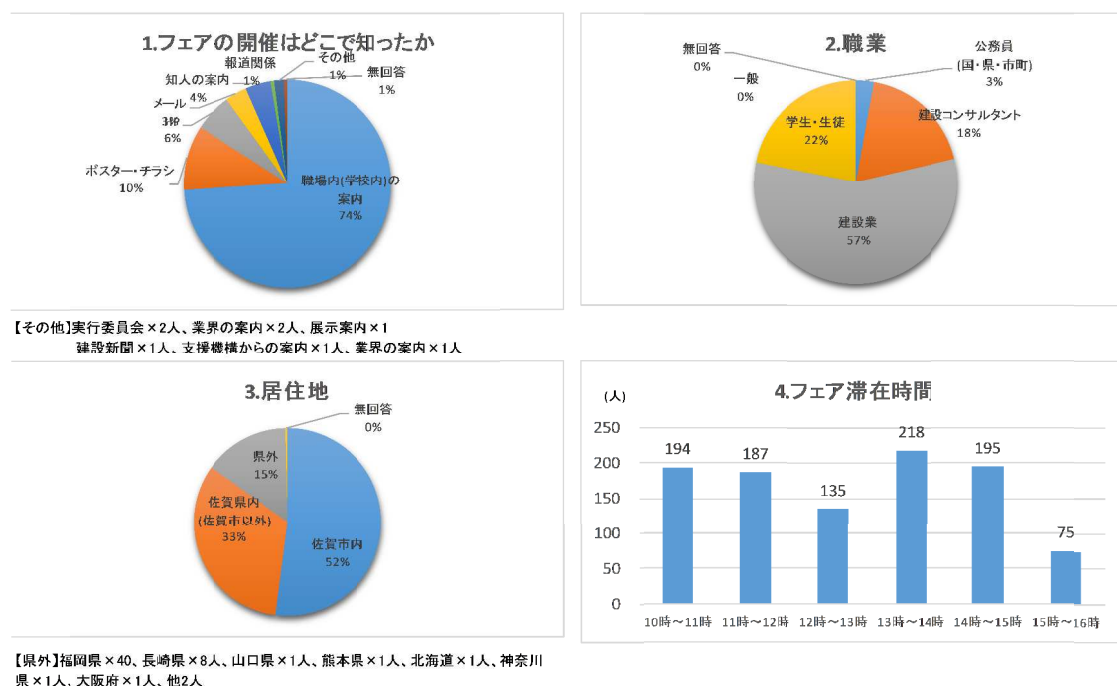
建設業が最も多く来場者の半数を占め、次いで学生(22%)となっています。

設問 3) 居住地

佐賀県内から来場者が80%を超え、そのうち佐賀市が半数を占めています。

設問 4) 滞在時間

午前と午後ともに、時間が経つにつれて滞在人数が減る傾向にあるようです。



設問 5) 来場目的

情報収集が最も多く 65%、建設技術への興味が 32%となっています。

設問 6) 来場目的は達成できたか

達成できたとやや達成できたを合計すると 85%となっています。

設問 7) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は 8 割程度となっています。

設問 8) 開催場所は妥当か

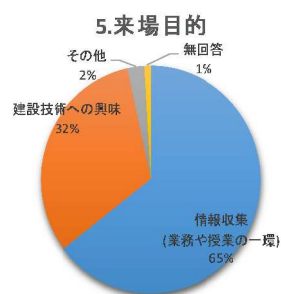
妥当という回答は 87%となっています。

設問 9) 毎年の開催を希望するか

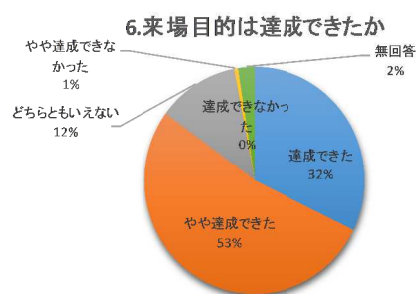
希望するという回答は 85%となっています。

設問 10) 全体評価

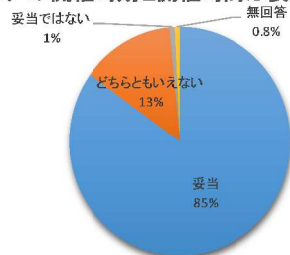
アンケート回答者の半数以上は満足あるいはやや満足と回答しています。



【その他】出展×5人、CPD×2人、CPDS×4人、講演×1人

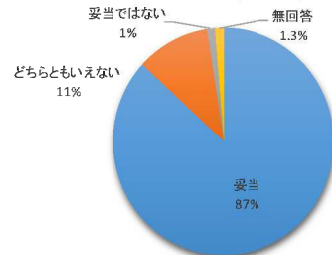


7.フェアの開催時期と開催時間は妥当か

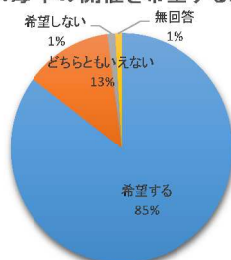


【妥当ではない】秋×2人

8.フェアの開催場所は妥当か

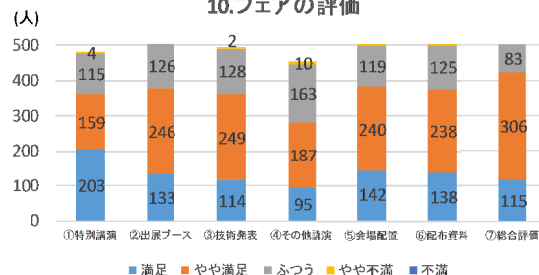


9.毎年の開催を希望するか



【希望しない】1回/2年

10.フェアの評価



(2) 2 日目

設問 1) フェアの開催はどこで知ったか

職場内（学校内）からの案内が最も多くなりました。

設問 2) 職業

建設業が最も多く来場者の 6 割以上を占めています。

設問 3) 居住地

佐賀県内から来場者が 80%を超え、そのうち佐賀市が半数以上を占めています。

設問 4) 滞在時間

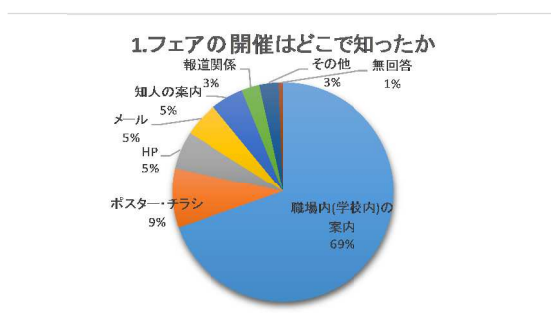
午前中の来場者が多い結果となりました。

設問 5) 来場目的

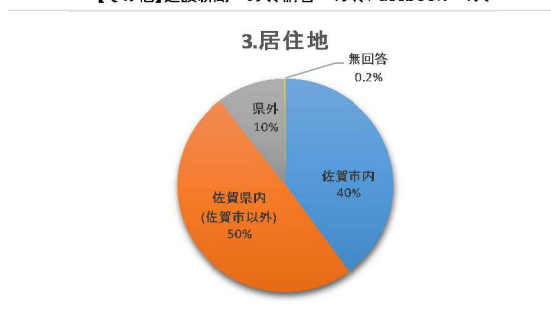
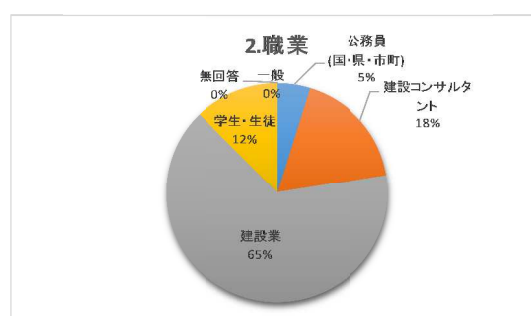
情報収集が最も多く 60%、建設技術への興味が 35%となっています。

設問 6) 来場目的は達成できたか

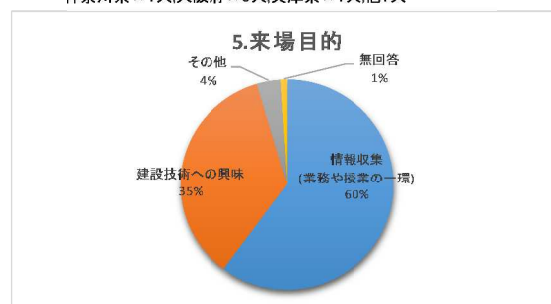
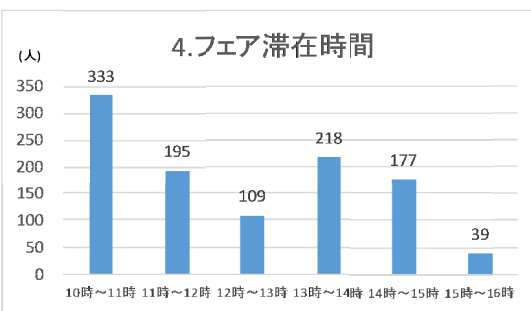
達成できたやや達成できたを合計すると 85%となっています。



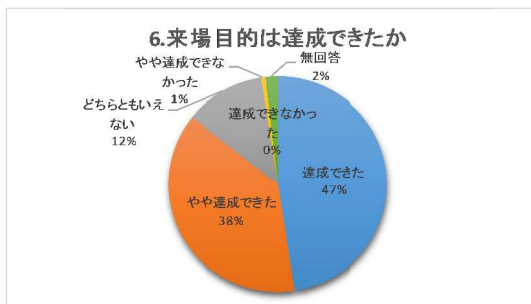
【その他】建設新聞×5人、講習×1人、Facebook×1人



【県外】福岡県×59人、長崎県×1人、熊本県×2人、山口県×1人、埼玉県×1人、神奈川県×1人、大阪府×3人、兵庫県×1人、他1人



【その他】出展×11人、CPDS×6人、特別講演×1人、講演×1人、CPD×1人、CPDS×6人、他×4人



設問 7) 開催時期と開催時間は妥当か

妥当と回答した来場者は 8 割以上となっています。

設問 8) 開催場所は妥当か

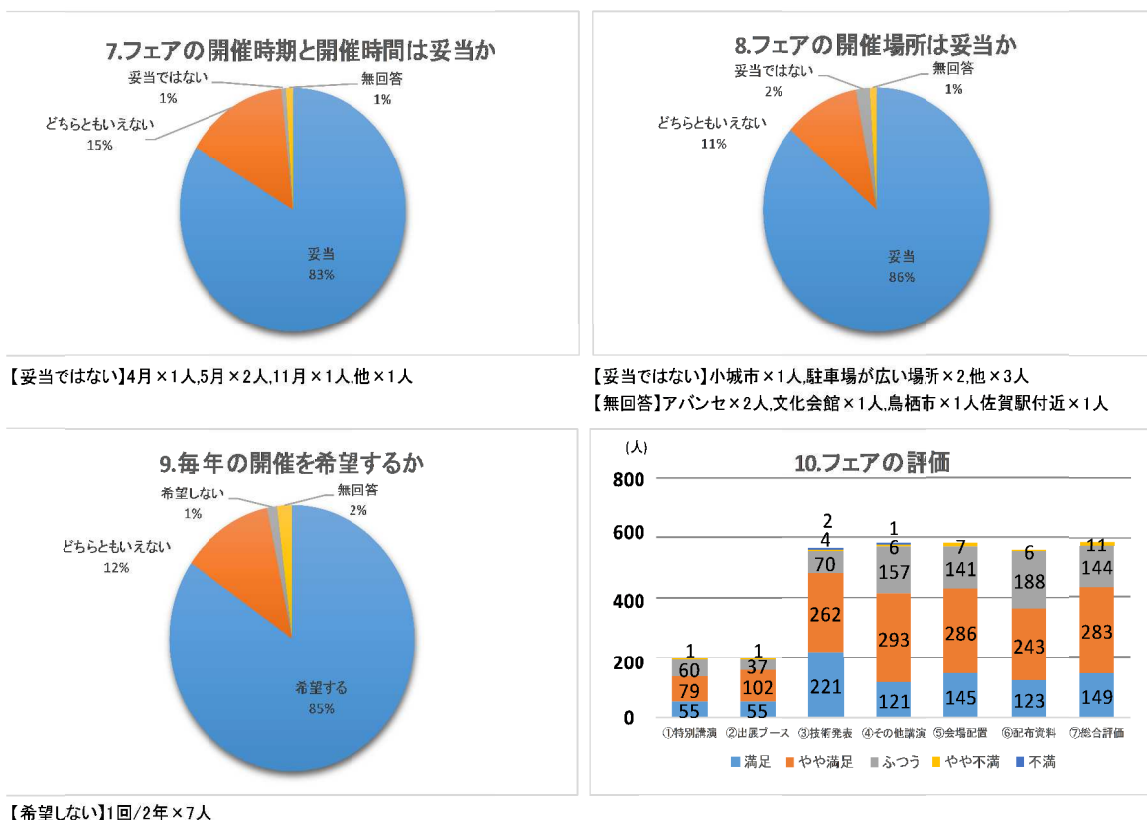
妥当という回答は 86%となっています。

設問 9) 毎年の開催を希望するか

希望するという回答は 85%となっています。

設問 10) 全体評価

アンケート回答者の半数以上は満足あるいはやや満足と回答しています。



(3) 来場者からの自由意見

- ・講演等では最新の技術動向又最新の課題に対する対応等について講演していただければ
 - ・来場者の業種が見た目で分かるようにして欲しい(バッジをつけるなど)
 - ・実際の器機があるなら実演等も見てみたい
 - ・各技術分野の最新情報が記載された本の提示
 - ・技術発表については環境関係と新技術工法についても追加していただきたい
 - ・ドローンを使って出来る事 測量等新しい技術について色々な工法
 - ・コンクリート補修工法に興味がある(新技術)
 - ・工事等一連のつながりが分り易くすると良い
 - ・エネルギー+環境+建設のようなコラボ出来るスペース、異業種と交流できるようなスペースを作って欲しい
 - ・恒例行事にしていただければよいと思う 毎年フェアに向けて県内企業他刺激になってよいと思う
 - ・鉄鋼関係がなかったので次はお願いしたい
 - ・講演会場にブースの雑音が入りすぎる 講演資料をいただきたい 事前公示のプログラムに講演題目を示して欲しい
 - ・実績の多くある技術も良いが、最先端の技術も見なかった
 - ・積極的な説明(PR)が不足しているブースが多かった
 - ・防災や環境をテーマにしたブースがもう少しあればなお良かった
 - ・出展者の名前だけでは何をやっているのか分りにくかったです。フェアの名の入った手提げ袋が欲しいです
 - ・会場が広く各ブースが見やすくて良かった
 - ・筑後川下流事業の講義は昔携わった内容だったので大変面白かった
 - ・講演で質疑の時間があつた方が良いのでは？
 - ・特別講演については別の静かな部屋を準備していただいた方が良いのでは
- 授業の一環でとても勉強になった
- ・私たちのような学生でも十分に楽しめるフェアとなりました。様々な興味がもてたのでより一層建設に関心が持てました
 - ・土木工学の新技術にふれる事が出来き、特に深層混合処理工法の YBM が良かったです
 - ・官公庁(県・市町)の方にはもっと多く参加していただきたい
 - ・専門的な職種であれば掲示物もわかりやすいが、他の職種だと分かりにくいことが多くもう少しかみくだいて掲示をお願いしたい
 - ・建設関係の出展が少ないので増やしてほしい
 - ・実物が展示できない物もできれば外でも展示して欲しい
 - ・資料を持って帰りたいブースもあつたがパネルしか無かった
 - ・建築技術系の特に耐震に関する出展があれば興味あるものになると思う

5.2 出展者アンケート

出展者を対象にアンケート調査を行いました。38 社の出展者のうち、25 社から回答をいただきました。

設問 1) 出展の目的は

新製品等の PR と企業・団体の PR が 1/3 ずつを占めました。

設問 2) 出展の目的は達成できたか

やや達成できたが半数以上を占め、達成できた 12%・達成できなかった 13%でした。

設問 3) 次回も出展したいか

出展したいは 58%で、出展しない 4%でした。

設問 4) 技術発表をしたか

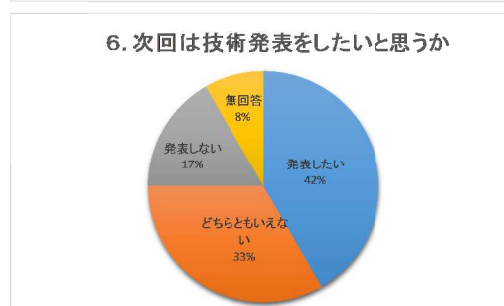
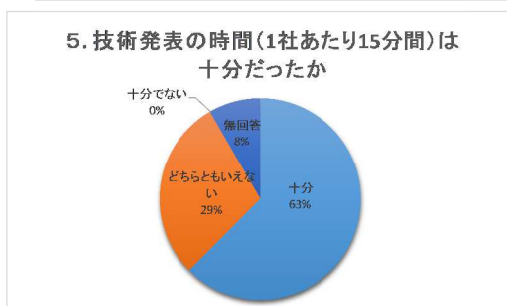
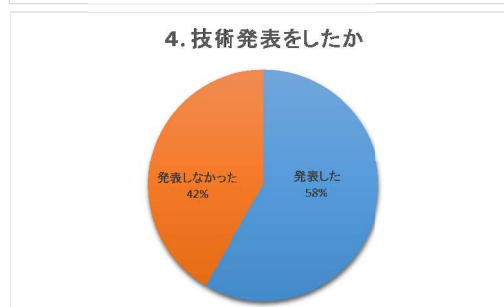
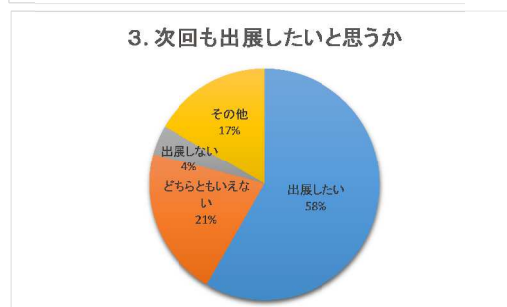
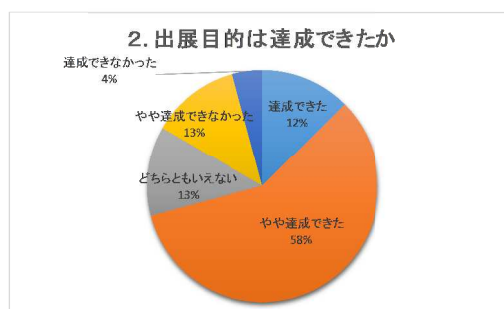
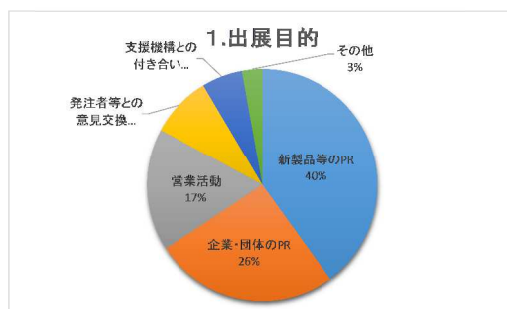
半数以上が技術発表をしたとの回答でした。

設問 5) 技術発表の時間（1 社あたり 15 分間）は十分か。

半数以上は十分だと回答しました。

設問 6) 次回は技術発表をしたいか

次回も技術発表をしたいと答えたのは 42%でした。



設問 7) 来場者数に満足したか

満足と回答したのは 33%でした

設問 8) フェア後に来場者に PR したか

半数程度の出展者がフェア後に PR したようです。

設問 9) フェア後に来場者からの問合せはあったか

来場者から問合せがあったのは 2 割程度でした。

設問 10) フェアへの出展は有効だと感じたか

半数程度は出展が有効だったと感じているようです。

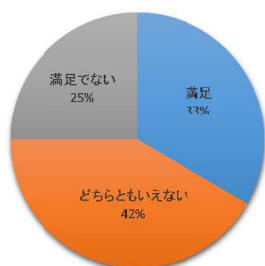
設問 11) 配布したポスターやチラシは活用したか

ポスターやチラシを活用したのは 7 割程度でした。

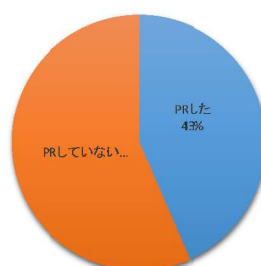
設問 12) 出展費用（ブース 50,000 円、技術発表 10,000 円）は妥当か

妥当と感じた出展者は半数程度でした。

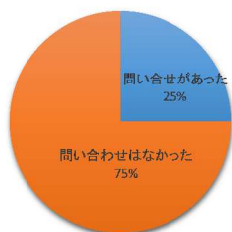
7. 来場者数に満足しているか



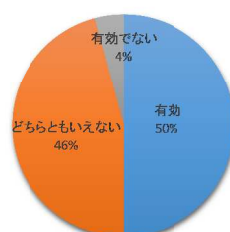
8. フェア後に来場者にPRしましたか



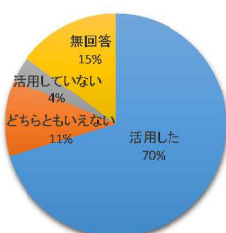
9. フェア後に来場者からの問合せはあったか



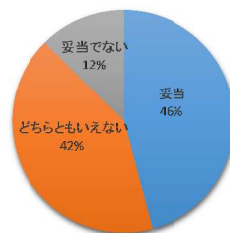
10. フェアへの出展は有効だったと感じているか



11. 配布したポスターやチラシは活用したか



12. 出展費用(ブース50,000円、技術発表10,000円)は妥当だと思うか



設問 13) 出展ブースの配置は適当か

8 割程度は適当だという結果になりました。

設問 14) 意見交換スペースは必要か

必要だと感じたのは 4 割程度はいるようです。

設問 15) フェアが掲げる目的は達成したと思うか

達成したとやや達成したという回答を合計すると 8 割以上となりました。

設問 16) フェアの開催時期と開催時間は妥当か

妥当という回答は 9 割以上でした。

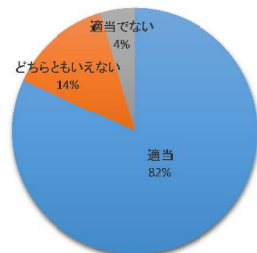
設問 17) フェアの開催場所は妥当か

妥当と感じた出展者は 8 割程度いたようです。

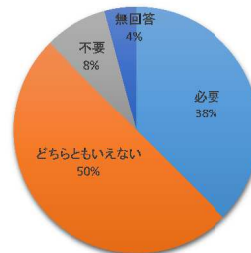
設問 18) 毎年の開催を希望するか

希望すると回答した方が半数以上はいました。

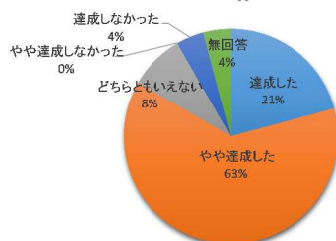
13. 出展ブースの配置は適当だと思うか



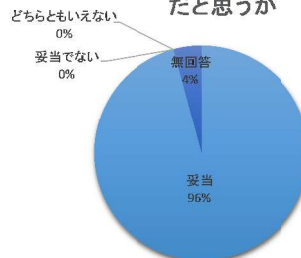
14. 意見交換スペースは必要だと思うか



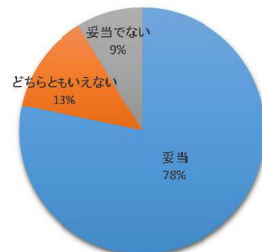
15. フェアが掲げる目的は達成したと思うか



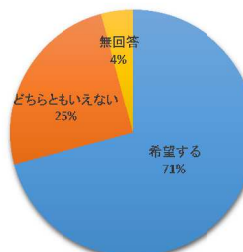
16. フェアの開催時期と開催時間は妥当だと思うか



17. フェアの開催場所は妥当だと思うか



18. 毎年の開催を希望するか



【出展者からの自由意見】

・県外の来場者を招待すると佐賀の技術が佐賀だけにでなく県外にも広く通知できるのではないかと感じた。

・発注者である事業体(国・県・市町)からの参加者の増員を期待

・フォークリフトの作業が行える会場を期待します。理由としては、今後、新製品(コンクリート 2 次製品の展示)も行いたい為

・佐賀県トライアル発注製品を取り上げて頂くとか、佐賀県との連携もお願いしたい。

・毎年開催することを続けて、佐賀県の毎年恒例の催しとなれば、より多くの出展や来場に繋がるのではと思います。

・出展する側もフェアの規模が大きくなればより出展し甲斐がある催しになると思う。

・産業・学校関係者の来場は多く見受けられましたが、官公庁関係の来場が少なかったと考えております。出展者も広く開催の広報に努めていますが、主催者様によるアナウンスや官公庁側によるご配慮が今後の盛況・拡大に寄与するものと思います。

※他フェアでは官公庁の幹部会議を日程に併せ行うなどの取り組みを行われております。

・CPDSの受講証明書を受領すると来場者が非常に少なくなった。

・重量展示は屋外スペースがあればありがたい

・来場者へのアンケート公表をフェア終了後にしてほしい

・来場者が出展者に対しどのような事を希望されているか、市場の需要など知るためのきっかけになるようなアンケートも実施してほしい

・名刺交換した方へ後日お会いでき商売に展開することが出来、今回の建設技術フェアは一斉に多くの方に製品(商品)PRができ良いきっかけとなりました。

・幅広い分野の出展があったのは良かったが、その割に出展数が少ないと感じたので、より多くの出展を希望します。

・技術発表をする場合、発表者のブースが何処か(位置)を示したらどうか

・新技術・保有技術のご紹介の場の開催として非常に感謝しております

・高校生の来場についてですが、興味を持ち真面目に各ブースで説明を聞いてる生徒が多かったですが、中にはそうでない生徒も見受けられたので、一般来場と時間を分けてはどうでしょうか？

・他県などフェアを見ていると建設業の為、国交省のブースを見る事がありますが、農水省のブースを見る事はありません。

佐賀県は農水省の工事も多く出展して頂ければ珍しくてよいと思います。

・出展者や来場者に名札(または産学官の色分けしたもの)をしてもらった方が分り易く説明もしやすいと思う

6. まとめ

当機構は、地方公共団体の建設行政との連携・協働を図り、社会資本の整備及び公共施設の維持管理に関する各種の技術支援事業を通じて、県民の安全で安心な生活の実現に寄与することを目的としています。

当フェアは、公益目的事業の「技術力向上のための技術情報発信事業」における「建設技術情報啓発事業」に位置付けており、日々進化する建設技術の情報収集発信・利活用が必要不可欠であるという観点から建設技術の理解を深めるための取り組みの一環として実施しました。

第 1 回目であった昨年度を上回る方々にご来場いただきました。来場者ならびに出展者に対して実施しましたアンケート結果を見ると、多くの方にご満足いただいた一方、当日対応や出展内容などへのご意見・ご要望が多数あり、今後の開催にあたっての課題も明らかになりました。今後はそれらの課題を改善しながら、継続開催を希望する声も多かったことから充実したフェアとなるよう努めてまいります。

最後に、当フェアを開催するにあたり多大なご協力をいただきましたご講演者の皆様、佐賀県をはじめとした共催者ならびに後援の方々、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

(以上)